

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 公立大学法人山梨県立大学

1. 事業の趣旨・目的

山梨県内に在住する、日本人配偶者として来日した人々を含む、日常会話に必要な日本語能力は有するものの体系的な日本語教育を受けた経験が少なく、獲得した日本語能力を用いて社会になんらかの貢献をする機会を有していない長期滞在の外国人住民に対し、自身の日本語力に明確な輪郭を持たせ、社会参加への自信を醸成すること、さらには、社会参加への道筋の見える明確な学習目標を設定するため、①日本語の構造に対する体系的な知識と、②語学教育の基本的な手法、③社会参加に必要な知識と情報を学ぶための講座を実施する。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

| 開催日時 | 開催場所 | 出席者 | 議題 | 会議の概要 |
|-------|-------------------|--|--------------------|---|
| 12月1日 | 山梨県立大学飯田キャンパス中会議室 | 芦澤薫 長谷川義高 大澤英二 鈴木郁子 波木井昇 安藤淑子 | 講座の概要の説明及び運営方針について | 具体的に想定する受講者像、授業の進め方、最終的に期待する学修程度について説明及び質疑応答を行った。 |
| 3月9日 | 山梨県立大学飯田キャンパス中会議室 | 芦澤薫 大澤英二 鈴木郁子 波木井昇 安藤淑子 | 講座の実施状況及び今後の活動について | 講座により得られた学修レベル、受講者の今後の社会参加方法、来年度以降の取り組みについて質疑応答及び意見を徴取した。 |

【写真】



第1回運営委員会



第2回運営委員会

3. 養成講座の内容について

- (1) 講座名 日本語指導者養成講座（基礎編）
- (2) 開催場所 山梨県甲府市飯田5-11-1 山梨県立大学飯田キャンパス
- (3) 学習目標 ①日本語の構造に対する体系的な知識、②語学教育の基本的な手法、③社会参加に必要な知識と情報を修得する。
- (4) 使用した教材・リソース みんなの日本語文型練習帳、みんなの日本語初級 I 本冊、みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説書（中国語・スペイン語・韓国語・ポルトガル語）、ひらがな50音表、KANJI SENSE、新日本語の基礎かな練習帳（スペイン語版・中国語版・韓国語版・ポルトガル語版）、一人で学べるひらがな・かたかな、かなマスター、EFFECTIVE JAPANESE USAGE DICTIONARY、日本語能

力試験語彙一覧表、講師作成資料、ほか

- (5) 受講者の募集方法
チラシを各市町村の外国人担当部署窓口へ送付し配布を依頼した。また、大学のホームページで告知を行った。
- (6) 受講者の総数 22人
(出身・国籍別内訳 台湾4名、中国5名、ペルー6名、韓国2名、ブラジル3名、チリ1名、アルゼンチン1名)
- (7) 開催時間数(回数) 20.5時間 (全9回)
- (8) 参加対象者の要件
地域に居住する外国人で、日常生活において「聞く」・「話す」ことはほぼ問題なくできる者
- (9) 講座内容

| 回 | 開催日時 | 時間数 | 受講者数 | 講座名／学習内容 | 講師 |
|---|--------|-------|------|-------------------------------------|-----------------------|
| ① | 12月11日 | 2.5時間 | 19人 | 開校式、オリエンテーション、日本語の文法1 | 山梨県立大学准教授 安藤 淑子 |
| ② | 12月18日 | 2時間 | 16人 | 日本語の文法2 | 山梨県立大学准教授 安藤 淑子 |
| ③ | 1月22日 | 2時間 | 18人 | 講演：「私のお気に入り：日本語で私の文化を発信！」 | 山梨県立大学教授 山田 千明 |
| ④ | 1月29日 | 2時間 | 17人 | 日本語の文法3、日本語の音声 | 山梨県立大学准教授 安藤 淑子 |
| ⑤ | 2月5日 | 2時間 | 17人 | 講演：「日本人の表現スタイルについて～日本人の思考、習慣、方言など～」 | 山梨県立大学教授 秋山 洋一 |
| ⑥ | 2月12日 | 2時間 | 18人 | 日本語の文字・表記、日本語の語彙 | 山梨県立大学准教授 安藤 淑子 |
| ⑦ | 2月18日 | 2時間 | 17人 | 日本語の教材、日本語教授法 | 山梨県立大学准教授 安藤 淑子 |
| ⑧ | 3月3日 | 3時間 | 16人 | 日本語指導の実際 | 山梨県立大学非常勤講師 原田 かおり |
| ⑨ | 3月4日 | 3時間 | 16人 | 模擬実習発表会、閉講式・意見交換会 | 山梨県立大学准教授 安藤 淑子 |

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

- ・ 講座の満足度については、有効回答13に対して、「とても良かった」が7、「良かった」が5であった。
- ・ 内容については「ちょうど良かった」が7、「難しかった」が1、「少し難しかった」が5であった。
- ・ 受講者の理解が深まった項目は、複数回答で「文法」が8、「日本語の語彙」が2、「音声」が4、「日本語の教え方」が9であった。
- ・ 自由回答としては、「この講座は楽しかった。もっと教えてほしい」「これからも続けて勉強する中級講座がなくて非常に残念だ」、「短かったし、すぐはやいからもう少し時間が長い方がいい」、「今までごまかして使っていた日本語を整理することができて良かった」「この講座のおかげで勉強の刺激になった」「いろんな国の人に会えてうれしい」等の声があった。全体として、この講座は大変勉強になったので、来年度以降も続けてほしいという意見が多数であった。

② 実施主体からの研修内容結果評価

第一回のオリエンテーション時には、若干日本語のレベルが下回る受講者の出席も見られたが、オリエンテーションで講座の内容・進度を説明したところ、以降はおおむね事前に設定したレベルの受講者のみの出席となり、当初予定していた内容で講座を実施することができた。

また、毎回課題を出して自宅での復習を義務付けたが、提出率および講座への出席率が高く、意欲の高い受講者が多かったと推測できる。また、講座内では受動的に講義を聞くのみならず、自分から文法の説明を行うなどの実践的な活動を多く取り入れた。このことが、受講者間に交流と連帯の意識を生み出した。

講座の最終課題である実習では、4つのグループがそれぞれ授業案を作成し、全員の前で模擬授業を行った。グループごとに「文法」「あいさつ表現」「文型練習」「語彙」と、本講座で学んだ領域に分かれて模擬授業を行い、当日外部から招いた日本語教育の専門家からも高い評価を得ることができた。

このように、実習および受講者のアンケート結果から総括すると、講座はほぼ目標を達成し、受講者の満足度も高かったと言えるだろう。学習を継続したいという受講者の要望が高く、できればさらに高い(今回は「基礎」)レベルの講座を開講したいと考えている。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

今回の受講者(全回出席者)には、修了証を学長名で授与した。今後、県の国際交流協会および県の教育庁へ人材登録を行う予定である。また、山梨県立大学においても新たに人材として登録し、大学教育の面でも活用していく予定である。さらに、受講者には、より高度な日本語学習の機会を大学より提供する(授業開放講座等の活用等)予定である。

なお、県立大学では現在成人向けの日本語教室(甲府市と連携)および外国人児童生徒向けの学習支援教室を開催している。こうした教室への協力も今回の受講者をお願いしている。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

先述したように、山梨県の人材バンク(教育委員会・国際交流協会)に受講者を登録し、今後日本語教室や学校等で日本語教育支援、外国語支援の必要な際には活用していただくようお願いしている。また、地域の日本語教室および山梨県立大学内の成人向け日本語教室および外国人児童生徒向けの学習支援教室でも活用する予定である。

② 研修後の人材活用

上記のとおりである。さらに、山梨県立大学における教学面(講座のゲストスピーカー、外国語会話練習等)でも外国から来た人々の有効活用を考えている。そのために、今回の受講者に対し、別途アンケート調査を実施している。

(12) 今後の課題

実際に、登録された人材を有効に活用する方法を具体的に示す必要がある。人材養成と、実践とは並行して行われなければ意味がないからである。そのためには、機会あるごとに外国人住民のさまざまな可能性を示す必要があると考えている。実際に、外国人児童生徒を指導する教員研修会には、本講座で学んだ外国人住民に日本語指導のパフォーマンスをお願いし、教育委員会ははじめ先生方に強い印象を残している。

同時に、外国人住民側も日本社会への積極的な参加の姿勢を持つことが必要である。彼ら・彼女らをエンパワメントするためにも、自身の日本語能力および日本社会に関する知識に一定の確信がもてるような学習と実践の機会を提供することが必要だろう。



授業風景



講演「言葉と文化」



教材研究



教育実習